

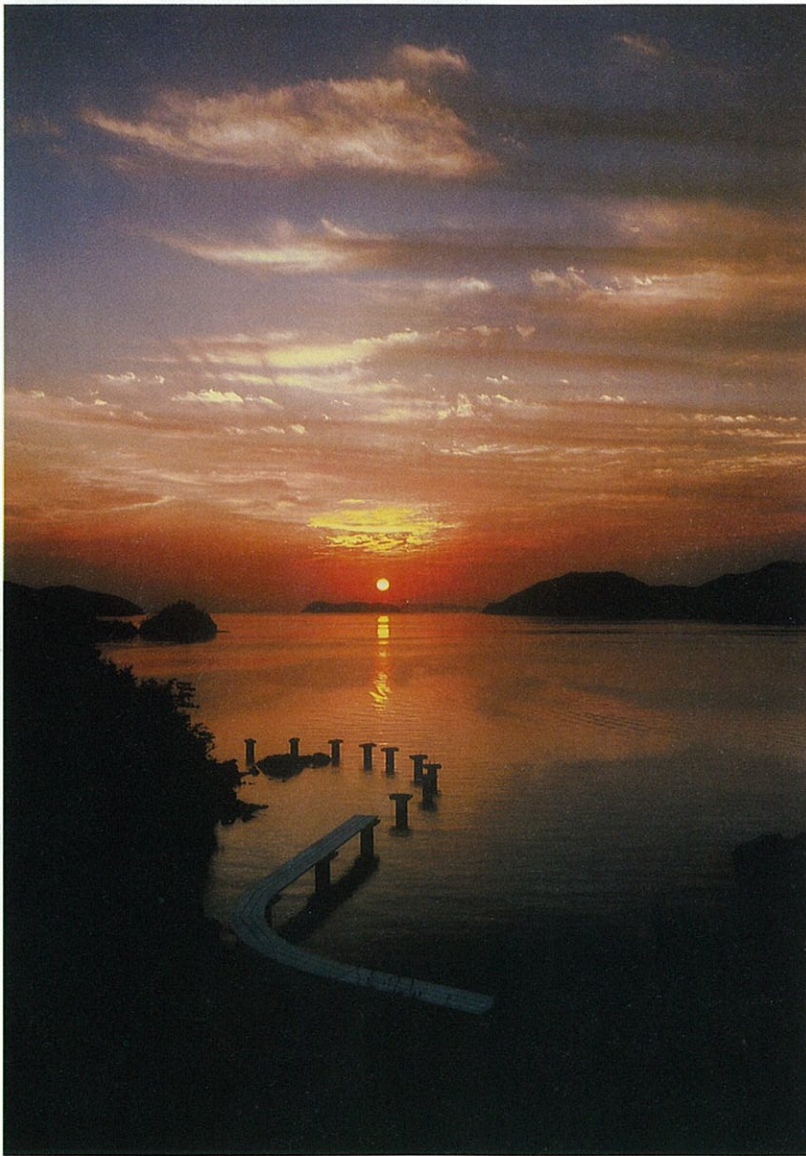
みんなの夢の創造と実現のために……

星のゆめ

下松市観光協会
会報

VOL.16

編集・発行／下松市観光協会 発行責任者／弘中佑児 Phone 0833-45-1843 URL/http://kankou.kudamatsu.info



第二回下松観光スポット写真コンテスト

下松市在住 中村 信明さん
タイトル「笠戸湾夕景」

近頃世の中がだんだんおかし
くなってきた感じがします。世界では
アメリカとイラクの確執、イス
ラエルとパレスチナの終りのな
い戦い、韓国、中国の反日感情
と北朝鮮問題等先の読めない混
乱が続いています。国内でも子
供の虐待や犯罪の低年齢化、経
済環境の中では食に関するごま
かしや、温泉と称するいつわり
等、恥を忘れた行動が続発して
います。映画「ラストサムラ
イ」や「トワイライトサムラ
イ」の精神はどこへ消えたので
しょうか。食が乱れば国が乱
れると東京農業大学の小泉武夫
教授が講演で予測されていたと
おり大変な時代がきてしまった
ようです。日本の食の自給率が
とうとう40%をきり30%台に突
入しています。日本人の食べ物
の7割近くが外国に依存されて
いるわけです。昨今の異常気象
が世界の農業大国にダメージを
与えれば即我々の食卓に悪影響
が出てきます。一人ひとりでは
何も出来ないし変わらないとあ
きらめる事なく、地産地消の心
を持続させる事が、食の自給率
を押し上げる力になると信じ
て、積極的に常にプラス志向で
立ち向かっていきたいものです。

(A)



平成16年度

年間行事



桜桜フェスタ2004 4月4日
ぼんぼり点灯式 3月27日



米泉湖音楽フェスタ 9月23日



第27回 笠戸島まつり 5月3日
残念ながら雨で中止



ひらめ供養祭 9月20日



第16回 イカダまつり 8月29日
残念ながら雨で中止



稲穂まつり 11月3日

元気づくりくだまつ総踊り

笑いと花と童謡のまち

平成十六年九月二十五日(土)

中央町下松タウンセンター(ザ・モール周南)中央広場周辺



出演団体

下松市吹奏楽団
スウィングスターズオーケストラ

よさこい

- | | |
|---------|----------|
| 〈市内チーム〉 | 〈市外チーム〉 |
| 流星輝隊 | TEAM 紅 |
| 降松星組 | 錦よさこい連 蛭 |
| 松笑連 | 光よっちょ連 |
| 米川キッズ | 長州青組 |
| 天祈 | 周防紅華連 |
| | 周南誠友会 |
| | 益田蟠竜おどり隊 |

市民総踊り

- 来巻神舞保存会
下松市母子寡婦福祉連合会
山口県保育協会下松支部
下松市連合婦人会
下松市体育協会
中国電力(株)下松発電所
東洋鋼鉄(株)下松工場
(株)日立製作所笠戸事業所
郷土おどり保存会・コドモ日舞
一般参加

【主催】
下松市観光協会
“元気づくり”くだまつ総踊り実行委員会

【後援】
下松市
下松市教育委員会

【協力】
下松タウンセンター連絡協議会
大塚製薬株式会社



第2回 下松観光スポット 写真コンテスト

ご応募ありがとうございました。

1年間という時間をかけて、この度「星ふるまち☆くだまつの四季」PR観光写真を募集いたしました。沢山の方々から、個性あふれる作品のご応募を頂き感謝いたしております。

さて、どれも甲乙つけがたい作品でしたが、厳正な審査の結果、入選者が以下のように決定しました。

受賞名	氏名	住所	出品タイトル
推薦	中村 信明	下松市在住	笠戸湾夕景
特選	井生 よし江	周南市在住(旧熊毛町)	小さな秋
	内山 和則	周南市在住(旧徳山市)	鐘の鳴る丘
	小堀 弘	周南市在住(旧徳山市)	夕陽
入選	細田 泰三	下松市在住	楽しい俵かつぎ
	砂田 愛子	下松市在住	祈願
	広田 和夫	宇部市在住	ゴールを目指して
	山本 博文	下松市在住	春景色
	松田 正久	下松市在住	紅葉谷の彩
佳作	武居 重正	下松市在住	笠戸湾黄昏
	友森 久子	周南市在住(旧熊毛町)	下松湾の夕景
	二ノ丸 卓成	下松市在住	白浜の夏
	河原 茂男	柳井市在住	薫りに誘われて
	河野 サエ子	下関市在住	祭りの若者たち
	相本 悦子	下松市在住	塔の幸福
	浜田 靖子	下松市在住	米泉湖の夕暮れ
	弘中 一壽	下松市在住	笠戸島の春
	常村 敏彦	周南市在住(旧熊毛町)	切戸川の春
輪田 重昭	山口市在住	笠戸大橋の夕景	

第3回 下松観光スポット写真コンテスト

星ふるまち☆くだまつの四季

PR観光写真大募集!!

笠戸島、米泉湖、花岡、切山、切戸川、風鎮踊り、きつねの嫁入り、切山歌舞伎、花岡歌舞伎、桜桜フェスタ、コスモスマつり、神社、仏閣、施設、史跡、街角スナップなど、あなたがPRしたい四季を通じた愛するスポットを題材にご応募ください。《第3回の素材テーマは、建物です。》

賞 推薦 1点 (下松市長賞)
★賞状 賞金3万円

特選 3点 **佳作 10点**
★賞状 賞金2万円 ★賞状 賞品

入選 5点
★賞状 賞品

*入賞作品は観光協会報「星のゆめ」の表紙に掲載します。

応募規定

- ★入賞者は原則として、お1人1賞とします。該当作品が無い場合は、その賞を空席とすることがあります。
- ★応募作品は返却いたしません。
- ★写真の裏に応募票を貼り付けて下さい。
- ★入賞作品の著作権は主催者に帰属します。入賞作品はネガを提出して下さい。

応募要領

- ★テーマ：下松市内の観光スポットを題材にしたもので、未発表のもの。(第3回の素材テーマは、建物です。)
- ★サイズ：カラープリント四切
- ★枚数：制限はありません。
- ★審査：主催者が委嘱する審査委員により行う。
- ★応募先：下松市商工観光課 下松市観光協会事務局
〒744-8585 山口県下松市大手町3丁目3番3号
又は、山口フジカラー取引カメラ店
- ★締切り：平成17年3月31日(木)
- ★発表：平成17年5月中旬予定
(入賞者には、通知をするとともに新聞紙上で発表します。)
- ★作品展：平成17年6月中旬予定

会員紹介

駒屋

贈答品の店駒屋は、下松駅南口で食品ギフト、各種おみやげ品、酒類の販売をメインに営業しています。平成元年には末武ショッピングセンターの方に支店を開設しました。

店の方針として、オリジナル商品の開発と、特徴のあるこだわり商品の発掘を掲げています。食品と酒類の部では地方銘酒と隠れた名品を揃えた日本名門酒会や山口県産酒で全国的に有名になった瀬祭の会に加盟し価値ある商品を探し出し、情報といっしょに届けられるよう努力しています。現在オリジナル品として「星のキャンディー」手みやげ品の「星ふるまちパイマン」や「星ふる伝説」「星

流」と銘うった純米酒を発売し好評を博しています。

今後も確かな商品を開発及び探求し四季折々の生活提案に少しでもお役にたてる店づくりに励んでまいりますのでよろしくお願ひします。

●お問い合わせ

下松市元町西一三三三
電話 四一〇〇九五
末武店
電話 四四二二五六七



菓舗 松の実

明治28年創業以来、星ふるまちのお菓子屋さんを合言葉に、下松に根ざしたお菓子作りにも励んでまいりました。

ご存じのように、下松には推古天皇の頃(595年)七星が降つて、七日七夜照り輝いたという鼎松伝説があります。この鼎松と星を⑦の数字にちなんだ銘菓を種々創製してまいりました。

主な商品は、銘菓松の実、松の実くつきー、遊食笠戸ひらめ、ひとつぶ、笠戸島ハーブクッキー、星ふるまちの笠戸物語、星ふる里の銘菓詰合せ等々です。特徴としては、玉子、小麦粉、苺、その他原材料を、自分の努力で手に入れることのできる最良の物を使用している点です。そして、中国産の松の実を使っていることも、菓舗松の実の特徴の一つです。

本店は、本店と星プラザ店の二店で、大城リゾート、笠戸島ハイツ、健康パーク、駒屋、みかどやにおいても、販売していただいております。

今後とも、よろしくお願ひします。

●お問い合わせ

下松市松神町一三五六一
電話 四一〇〇二八四
星プラザ店
電話 四五一二二七



旅は道連れ

三池孝尚の

台風18号の被害で、インドネシアの貨物船が笠戸島に座礁して、20数名の船員たちが遭難し、下松の名が全国に発信された。美しい瀬戸の海も、一変して恐ろしい牙を剥くこともあるのだ。不幸にして遠い異国の海

に散った方々のご冥福を心からお祈りしたい。

橋の架かっている頃、宮の州から瀬戸の渡しを伝馬舟で渡り本浦から尾根を伝って山の稜線を縦走し、白浜の小島に渡りロッククライミングの練習に汗を流して一日を楽しんだものだ。橋ができてから、いつの間にか車社会になって便利になると次第に笠戸島へは行かなく

なってしまう。美しい海を築しむ余裕が無くなったのだろう。便利になって気楽に行けると何故か、興味、関心が薄くなるという人間の持つ不思議な心の現象かもしれない。ここでひとつ、橋を失った夢でも見て、笠戸島を島として市民の心に甦らせるようなすべはないのだろうか。つまり、船で白浜の小島に上陸する企画を立てては如何

かな。美しい島は海岸から岩場を越えて入ることが、島に對しての礼儀だろう。例えば、白浜の小島に小さな遭難碑を建てて異国の人々の縁を何時までも大切にあげたい。観光とは、人の心を大切に思う心が原点ではないのだろうか。夕日の美しい島、美味しいひらめの島、そしてやさしい心の島、それが笠戸島なのだ。

編集後記

あいにく台風襲来で、今年のは浜山の行事が中止となりました。とりわけ16回目をおこなった笠戸島イカダまつりのスタッフにとつて準備万端ととのえていただけに、大変残念な結果になってしまいました。一方、だまつ総踊りの方は、秋雨前線停滞の中、唯一の晴れの日にあたり大盛況のうちに終了しました。イベントの成否は天候の良し悪しが少なからず握っているわけですが、まつりへの情熱さえ失う事がなければ次への飛躍は間違いなくやってくるものです。その時に蓄えたパワーを爆発させて下さい。

(A)

